

第24回生物試料分析科学会年次学術集会

森下 芳孝*

第24回生物試料分析科学会年次学術集会は、平成26年3月1日(土)から3月2日(日)の2日間、三重県の鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスにて開催されました。集会長は私、森下芳孝(鈴鹿医療科学大学)が務め、実行委員には中根生弥(厚生連豊田厚生病院)の他、本生物試料分析科学会東海北陸支部会員そして私ども鈴鹿医療科学大学の臨床検査コース全教員及び学生(ボランティア)がその任に当りました(写真1)。

集会前日の28日(金)は、生物試料分析科学会理事会をはじめ支部長会、編集委員会、集会委員

会等の各種委員会、本会の認定資格である「分析機器・試薬アナリスト」のための指定講習会及び認定試験、また「循環器疾患における臨床検査技師の役割」と題した講演会(自由参加)が開催され、会員の他、本学からも学生20名ほどが参加しました。

学術集会は、「臨床検査の発展と地域活性化～研こう技術・活かそう知識～」というテーマで開催されました。日進月歩する医学・医療と少子化・高齢化といった社会現象とが相俟って医療形態が多様化しつつある現状において、検査部のチ



写真1 実行委員の皆さん(学生ボランティアを除く)

*鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科 ymorishi@suzuka-u.ac.jp

ーム医療への参画やベッドサイド検査、さらには検査相談といった新しい取り組みが展開されつつあります。近未来の医療を見据えて臨床検査の進むべき新たな方向性を本集会で探りたいという狙いで特別講演、教育講演、シンポジウム等の特別企画を組ませて頂きました。

特別講演は、登 勉先生(三重大学大学院医学系研究科検査医学分野教授)に「臨床検査の将来を展望する～明るい未来のための必要条件は?～」と題して、ゲノム時代に合った個別化医療の必要性や検査部(臨床検査技師)は何を為すべきかの問いに対して方向性を示して頂きました。

教育講演は3題で、各々がシンポジウムと関連させた内容で講演が行われました。シンポジウム1「臨床検査の新展開～検査相談への対応～」では、日本臨床衛生検査技師会が昨年からの取り組みだした検査説明ができる技師育成についての現状報告を萩原三千男先生(日本臨床衛生検査技師会執行理事)に、検査相談窓口を早くから開設し検査相談を行っている愛知医科大学病院の紹介を岸 孝彦先生(愛知医科大学病院中央臨床検査部)に、健康食品管理士として一般市民を対象に実施している健康食品による健康被害に対する注意喚起や栄養指導の実際を渡辺数由先生(富士いきいき病院診療技術部)に、そして管理栄養士として患者を対象に行っている栄養相談を中東真紀先生(鈴鹿医療科学大学)に紹介して頂きました。本シンポジウムに関連して、前川真人先生(浜松医科大学医学部臨床検査医学教授)に教育講演1「チーム医療に求められる臨床検査技師」と題して、チーム医療における臨床検査技師の役割とその必要性を講義して頂きました。シンポジウム2では、「救急医療の最前線」というテーマで、2名の医師と1名の技師による発表があり、救急現場で発生する問題、求められる緊急検査、そして救急医療チームの中での臨床検査技師の役割などについて発表がありました。関連して、高松純樹先生(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター所長)に教育講演2「輸血事故防止のための必須検査と血液供給体制」というテーマで、緊急時の輸血検査及び血液製剤供給体制の現状について説明して頂きました。シンポジウム3では「新血尿診断ガイドラ

インおよび尿沈渣検査法2010を踏まえた血尿検査の最前線」というテーマで大学病院など4施設の取り組みを紹介して頂きました。特に、沈渣成分の赤血球形態について糸球体由来か否かの判定については検査技師の技能が求められるところであり活発な討議が行われました。それに関連して教育講演3では「尿検査と腎機能評価法 update: 血尿診断ガイドライン2013を中心に」と題して、安田宜成先生(名古屋大学循環器・腎臓・糖尿病(CKD)先進診療システム学講座・腎臓内科准教授)に血尿診断ガイドライン改定ポイント及び腎臓病全般について分かり易く講義して頂きました。ワークショップ「地場産業から学ぶ～地域イノベーションへの取り組み～」では、科学を通して成功された県内の3人の先生、西村訓弘先生(三重大学大学院医学系研究科教授)、松浦信男先生(万協製薬株式会社社長)、辻 保彦先生(辻製油株式会社社長)から成功の秘訣、それに掛ける情熱などを聴かせていただき、明日の検査・研究への教訓となるお話でありました。また、集会長講演として、私、森下が「臨床検査と生きる～目指せ検査のプロを～」というテーマで、夢(目標)を持つことの必要性を経験・私見を交えて話させて頂きました。

一般演題は50題の発表があり(写真2)、今回は特別に集会長賞として、見やすいスライドで分かり易くまとめられ好感が持てる発表であった40歳未満の若手の演者を対象に優秀発表賞が選考され、小野美由紀氏(九州大学病院検査部)、橋本佳祐氏(文京学院大学大学院保健医療科学研究



写真2 一般演題発表の会場風景

科)、山崎 勤氏(岡山理科大学理学部臨床生命科学科)、久保田 亮氏(埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科)の4人に賞状と副賞が授与されました。その他、最新の検査機器や試薬キット等を紹介する企業発表11題、ランチョンセミナー5題が実施されました。いずれの会場もかなりの聴講者があり活発な質疑や討議が行われていました。

また、ラウンジには機器・試薬メーカーによる展示コーナー、コーヒーとお菓子の無料サービスコーナーが設けられ、会員同士の歓談や休憩等に利用されていました。集会初日の夜の意見交換会は、「ホテルグリーンパーク鈴鹿」で113名の参加があり、本学軽音部の学生による演奏や三重の名産品をプレゼントするお楽しみ抽選会などが行われ、和気藹藹とした雰囲気の中、あっという間に時間が過ぎ去り、楽しい会でありました。

本学術集会は、交通の便のあまり良くない三重の鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスで開催させて頂きましたが、これは、私どもの鈴鹿医療科学大学を全国の病院や企業の方々に知って頂きたい、そしてまた学生には実行委員として学会運営(写真3)に携わったり講演を聴講したりする経験をさせたいという思いからでありました。平成23年4月に本学医療栄養学科の中に臨床検査コース



写真3 総合受付の風景

(定員40名)が新設されて、1期生は現在4年生であります。今回の学会運営には実務委員として4年生及び3年生のボランティアの合計37名(2日間の平均)が携わり、またそれとは別に、本学術集会上に聴講生として3年生20名、2年生37名(いずれも2日間の平均)の参加があり、学生諸君にとっては良い体験ができ、それなりの教育効果があったように思います。本学での開催にご尽力下さった東海北陸支部会員の方々や広告・協賛等でご支援・ご協力を頂いた多くの企業に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本学術集會を通して323名の参加があり、どの会場も活発な討論、情報交換が行われ、有意義な学術集會であったと思います。